

オンライン講座を活用した効果的な研修の在り方に関する研究

企画開発室 川崎 洋幸 兵頭 俊二 石崎 有一
檜垣 賢一 山下 太志

1 研究の目的

国際調査では、我が国の教員が職能開発に充てる時間は、他国に比べて短いことが示されており、その理由として最も多いのが、職能開発の機会と自分の日程が合わないことであった。そこで、オンライン講座を開発し提供することで、職能開発の機会の拡大と時間の伸長を図ることとした。1年次は、オンライン講座の種類と特徴を整理するとともに、オンデマンド型で研修を実施し、対面型と同程度の効果が得られることを確認した。2年次は、ライブ型も活用して、校内研修や自己研修支援の多様な研修プログラムを開発・提供し、受講者からの評価を通して、職能開発における効果を検証する。

2 研究の内容

(1) 全国の実施状況等

教員免許更新制の発展的解消が予定される中、校内研修や自己研修を含めた教員研修の充実が求められている。これまで、教職員支援機構が研修用動画を提供してきているが、新型コロナウイルス感染症対応を機に、全国の教育センター等での取組も急速に進んでいる。全国教育研究所連盟の調査（2020年）によれば、加盟63機関のうち、双方向（ライブ型）は46機関、オンデマンド型は45機関で実施されている。このうち、宮崎県や岡山県の教育センターでは、オンデマンド動画が多数提供され、教職員の自己研修を目的として活用されている。

(2) オンラインを活用した校内研修支援

本センターでは、各学校の要請に応じて所員が出向いて講師を務める「出前講座」を通じて、校内研修支援を行っている。この出前講座に、ライブ型やオンデマンド型に対応した講座を開設し、新たな形態で支援を行った。①「学習指導案審議の支援」では、校内で行われる学習指導案の審議に、所員がオンラインで参加し、支援を行った。所員が適切な場面で助言を行うことで、円滑に審議を進めることができた。②「訪問とオンラインを組み合わせた支援」では、同一校に対して、講義を行う訪問型の出前講座とオンラインでの指導案審議の支援を組み合わせ実施した。③「複数の学校をオンラインで結んだ支援」では、同一校区の小学校と中学校をオンラインで結び、同時に校内研修を実施した。移動の必要がなく、互いの学校の課題や目標を共有することができた。

(3) オンラインを活用した自己研修支援

指導上の疑問や悩みを解決するため、協力学校の若手教員に対し「道徳科お悩み相談」と題した①「若手教員への支援」を行った。オンラインを活用することで、若手教員と所員の少人数で開催することが容易となり、活発にやり取りをすることができた。また、②「オンデマンド動画の提供による支援」では、協力学校に対し、道徳科の指導に関するオンデマンド動画を提供した。概論をはじめ各学年の教材に関する内容まで、幅広い内容を取り上げた5～10分程度の動画を18本作成し、授業の進度に合わせて順次公開した。

協力学校の教員を対象としたアンケート調査によると、自己研修用に提供した動画を視聴した教員はおよそ7割で、「空いた時間に視聴することができた」「提供された動画によって道徳科の研修機会が増加した」との感想を得た。また、自己研修用動画は職能開発に有効と考える割合は9割を超えており、更なる工夫や改善により、動画提供の効果が期待できる。

3 研究のまとめ

対面型とオンラインのハイブリッド研修や遠隔地をつなぐ相互交流の研修プログラム、自己研修用動画などを開発し、校内研修や自己研修を支援することで、新たな研修効果を得ることができた。一方、自己研修を促進するために、研修ニーズの把握や研修内容の更なる周知を図るなど、受講の動機付けが必要であることも指摘できる。